

# 北海道浮魚ニュース

平成 30 (2018) 年度 16 号

2018 年 8 月 31 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎第 1 回太平洋スルメイカ中短期漁況予報発表される

8月31日、漁業情報サービスセンターより、第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした2018年9月の予報です。

なお、この予報は国及び太平洋側道県の水産研究機関が参画し、漁業情報サービスセンターがとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部 (<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>)

### 今後の見通し (2018年9月)

対象魚種 : スルメイカ

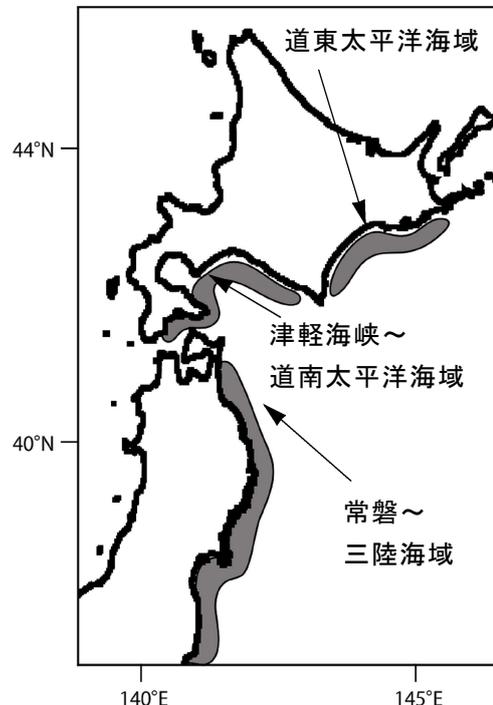
対象海域 : 太平洋 (常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域)

対象漁業 : いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群 : 冬季発生系群 (2018年級群)

- ・道東太平洋 : 来遊量は前年並。漁場形成は散発的となる。
- ・津軽海峡～道南太平洋海域 (いか釣り、定置網) : 来遊量は前年並。対象期間を通じて漁場となる。
- ・常磐～三陸海域 (いか釣り、底びき網、定置網、まき網) : 来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場となる。

※文中の「前年」は2017年のことです。



・漁況は、2018年7月20日に発表された第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報 (浮魚ニュース第11号参照)、及び、その後の各地の漁況経過等から予測されました。

・道南太平洋海域への6～8月の来遊は昨年を上回ったと考えられます。ただし、常磐～三陸海域への来遊量が昨年を下回っていることと、第1回漁場一斉調査 (釧路水試分は浮魚ニュース第5号参照) での分布密度が前年並であったことから、9月の来遊量は前年並と予測されました。

・道東太平洋沿岸域の水温は平年並みと予想されており、来遊は持続すると考えられます。ただし、8月の道東海域への来遊水準が低かったこと、第1回漁場一斉調査での沖合の分布密度が低かったこと、8月に実施した釧路水試・北辰丸の調査 (浮魚ニュース第14号参照) でも魚群の分布に偏りがみられたことから、道東太平洋の漁場形成は散発的と考えられます。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL : 0154-23-6222、FAX : 0154-23-6225)